



# 銭小だより

<学校の教育目標>

えがお・やさしさ・やる気  
あふれる 銭小の子

銭小HP



第7号 令和8年10月5日

【重点目標】 みんな笑顔 ～安全・安心な学校～

## 「わが教師十戒」

校長 大山 倫 生

今年度から、新しい教育目標となりましたが、ようやく体育館へ掲示することができました。

これまでの教育目標は、平成元年の校舎改築の際、壁に埋め込むように設置されたものであり、取り外すことができませんでしたので、右の写真のように設置することとなりました。

あらためて、保護者や教職員の願いである、「えがお やさしさ やる気 あふれる 銭小の子」を目指して、職員一同、取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



さて、私は教員として勤めるようになってから、「わが教師十戒」という言葉に出会いました。これは、長野県で小中学校の校長や教育委員長を務められた毛涯章平（けがいしょうへい）先生の言葉で、今回は、この言葉を紹介させていただきます。

### 「わが教師十戒」

- 1 子供を馬鹿にするな。教師は無意識のうちに子供を目下のものと見てしまう。子供は、一個の人格として対等である。
- 2 規則や権威で、子供を四方から塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと子供の心が窒息し枯渇する。
- 3 近くに来て、自分を取り巻く子達の、その輪の外にいる子に目を向けてやれ。
- 4 褒める言葉も叱る言葉も真の「愛語」であれ。「愛語」は子供の心に沁みる。
- 5 暇をつくって、子供と遊んでやれ。そこに、本当の子供が見えてくる。
- 6 成果を急ぐな。裏切られても、なお信じて待て。教育は根くらべである。
- 7 教師の力以上には、子供は伸びない。精進を怠るな。
- 8 教師は「清明」の心を失うな。ときには、ほっとする笑いと、安堵の気持ちを起こさせる心やりを忘れるな。不機嫌、不愛想は、子供の心を暗くする。
- 9 子供に素直に謝れる教師であれ。過ちは、こちらにある。
- 10 外傷は赤チンで治る。教師の与えた心の傷は、どうやって治すつもりか。

教員という仕事をしていると、子どもたちの言動の未熟さから、子どもたちを目下に見て、横柄になってしまうことが無意識のうちにあると思います。子どもたちを同等の人格として捉えることで、子どもたちも自分で考え、行動し、自分の役割を自覚しながら、学校や社会の中で責任をもって生きることができるようになるのではないのでしょうか。

この「十戒」は、親としても当てはまる部分があると思いましたので、紹介させていただきました。

## 学習発表会、日頃の学びの成果をステージへ！

【児童公開日】 10月15日(木)      【一般公開日】 10月17日(土)

学習発表会に向けて、各学年の取組内容が決定し、来週5日からは特別時間割が始まります。

子どもたちは、保護者の皆様に日頃の学習成果を伝えようと、練習に励んでいます。

一生懸命に自分の役割を果たそうとする子どもたちの姿は、大きな成長を感じさせてくれるに違いありません。当日はぜひ会場に足を運んでいただき、温かい拍手で子どもたちの背中を押していただければ幸いです。

- ・ 一般公開日当日は、全学年8：25登校です。
- ・ 1年生から順に発表し、6年生の発表が終わると全学年が下校します。
- ・ 下校時刻は、12時頃を予定しています。
- ・ スクールバス下校便は、12：20のみです。



## 10月17日(土)、資源回収にご協力をお願いします！

今年度2回目の地域での資源回収です。

資源回収の利益は、子どもたちの教育活動に役立ちます。ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

【回収できるもの(例)】

古新聞、古雑誌、段ボール、牛乳パック、ビール瓶、  
酒一升瓶、アルミ缶、自転車、鉄・アルミ製品

【回収できないもの(例)】

スチール缶、ペットボトル、上記以外の瓶(油や醤油、栄養剤などの雑瓶)、古着



## 学びの足跡から、さらなる成長へ…

10月9日(金)に前期の通知表を配付します。

当初の予定から遅れた配付となり、お詫び申し上げます。

ご家庭におかれましては、ぜひ以下の点をご意識いただき、お子さんに温かい声かけをお願いします。

□ 結果だけではなく「プロセス(努力)」を褒める

点数や評価の数値だけに目を向けるのではなく、お子様がこの期間に「何を頑張ったか」「どんな工夫をしたか」という努力の過程に耳を傾け、たくさん褒めてください。

□ 「これから頑張りたいこと」を一緒に見つける

課題は、伸びしろです。「次はどうしていこうか」と、お子様が前向きに次のステップへ進めるよう、具体的な目標を一緒に話し合ってください。

□ お子様自身の成長を捉える

誰かと比べるのではなく、お子様自身の以前の姿からの成長や変化を認め、自己肯定感を育む機会にしてください。

